

山の天気を知ろう

1. 気象情報を活用しよう

山の天気は変わりやすい。

山の天気の変化が、登山やハイキングの楽しみを大きく左右し、大きな事故や遭難につながる場合も少なくありません。

上昇気流の生じやすい山は平地より早く、大きく気象変化しやすいものです。「悪天候のときは山には行かない」を基本に、新聞、テレビ、ラジオなどの気象情報等に注意し、気象のメカニズムを知って、安全安心の登山・ハイキングを心がけましょう。



2. 気象判断のポイント

①全体の気圧配置を見る

一般に、高気圧は晴、低気圧や前線は雨をもたらします。悪天候をもたらす低気圧や前線がどこにあり、どの方向に動いているか、その動く速さなど、全体の気圧配置を見ることが重要です。

②天気変化の傾向をつかむ

天気は悪化する方向なのか、好転するのか、その変化の傾向をつかみ判断に役立てましょう。

③西の天気を見る

日本の上空には偏西風が吹いており、通常、天気は西から変化します。登山・ハイキング場所の天気情報だけでなく、その西側の地方の天気情報もチェックしましょう。

④四季の天気の特徴をつかむ

日本の天気には四季のパターンがあります。その特徴をつかみ天候の変化を予測しましょう。

⑤降水確率の意味

「降水確率」は、その地方に1ミリ以上の雨が降る確率のことで、降水量や降雨強度を表すものではありません。天気図や気象情報から降雨区域の移動状況をつかみましょう。

3. 気象情報の入手方法

①新聞の天気図

毎日の天気図を見比べ、気圧配置の変化などを見ましょう。山では平地よりも天気の悪化が早く、回復が遅れがちです。

②テレビやラジオの天気予報

最新の気象情報や天気予報とともに、天気図や雲の衛星写真、アメダスの情報などから、登山に行く地域の気象の変化を予測しましょう。

③インターネットによる情報

パソコンや携帯からインターネットでの気象情報を収集し、登山に行く地域の天気とともに、その西側の地域の天気情報もチェックしましょう。

④山小屋で聞く

山ではその山特有の気象傾向があります。山小屋の人の気象情報を聞きましょう。

⑤電話の117番で天気予報を聞く、気象注意報・警報を確認する。

行く山の地域の市外局番+117でその地域の天気予報を聞くことができます。

また、その地元の気象台の出す警報・注意報も確認しましょう。

⑥空をながめる

山に入ったら、雲の様子や風向き、気温の変化などに注意し、天候の変化を予測しましょう。

4. 雷にどう対処するか

上空に冷たい空気が入り込んでいる時や、急激な上昇気流が見られる場合など雷雲が発生しやすい時は、早めに山小屋に入るか下山しましょう。山では雷雲は夏場とともに、初夏にも発生しやすいものです。

もし雷が発生したら、なるべく周囲より低いところに逃げ込んで、姿勢を低くし、大きな木や鉄塔がある場合はその頂点から45度の範囲で、その木や鉄塔から2m以上離れてください。



5. 天気図と観天望気

天気図を書くことは難しいことですが、気象の仕組みがわかってくるので挑戦してみてください。また、自然をよく観察して天気を予測して「観天望気」の言葉が言い伝えられています。その中には科学的で確率の高いものもあります。

☆夕焼けは晴

☆笠雲がかかると雨

☆うろこ雲が出たら翌日は雨

☆飛行機雲が消えないと雨が降る兆し

☆レンズ雲は風が強くなる兆し

☆かなとこ雲は暴風雨をもたらす

☆雲の向きが南東なら雨は近い

☆蒸し暑い南風が吹いたら翌日は雨

☆星が瞬くと翌日は風が強いが晴

☆朝、クモの巣に水滴があればその日は晴

☆羊雲は雨の前ぶれ

☆アマガエルが鳴くと雨

